

# 安藤織馬

あんどう・おりま

福山藩文武総裁

## 経歴

生:文化2年(1805年)8月

没:明治18年(1885年)、享年81歳

文政11年(1828年)	23歳	安藤外記定孝の養子となる
嘉永6年(1853年)	48歳	正弘の命により、会津藩黒河内十太夫について長沼流兵学及び操練法を学ぶ
嘉永7年(1854年)	49歳	藩校誠之館の開設に尽力し、文武総纏を務める
慶応元年(1865年)	60歳	長州再征のとき蟄居を解かれ石州口に出張する
慶応4年(1868年)	63歳	長州兵が福山に迫ったとき、藩を代表して交渉にあたり、福山を戦火から救う

## 生い立ちと学業、業績

用人役三浦音人儔連の次男にして、安政11年(1828年)用人役安藤外記定孝の養子となる。

名ははじめ復五郎、のち外記、字は織馬、諱は定保のち定虎、通称は太郎右衛門、号は藤齋(蟄居名)・一斎(俳号)。

福山藩士。

妻は永峯より嫁ぐ。

嘉永6年(1853年)、阿部正弘の命により会津藩黒河内十太夫について長沼流兵学及び操練法を学ぶ。

帰藩後、家法および甲州流長沼流を取捨した兵法を採用し、藩士を教授する。

嘉永7年(1854年)藩校誠之館の開設に尽力し、その文武総纏を務める。

また藩政にも参画し、正弘公など五君に仕えた。

尊皇攘夷の志篤く、元治元年(1864年)禁門の変が起きると、安藤をはじめとする福山藩勤

皇方山岡秋崖、斉藤甚左衛門、大森鉄之丞、吉田助左衛門の5名は尊攘派と行動を共にした。

そのため幕府より蟄居を命じられ、100日あまりの蟄居中に長州再征となり、石州口に出張した。

慶応4年(1868年)長州兵が福山に迫った時には、三浦義建・関藤藤陰らと藩を代表して交渉にあたり、福山を戦火から救った。

俳句も得意とした。

雪に無理にぬれつつ居れば松乃音  
(月前梅花)月かげのさゆるかぎりは梅が香の  
かをれるくまもあらぬ色かな

子は安藤行敬(並樹)で、兵学を修める。

出典1:『中国新聞(平成22年11月5日)』、中国新聞社編刊、平成22年11月5日

出典2:『近世後期の福山藩の学問と文芸』、73頁、福山市立福山城博物館編刊、1996年4月6日

出典3:『福山藩の教育と沿革史 藩校から小学校まで』、134頁、清水久人著、鷹の羽本部阿部正弘公顕彰会編刊、1999年8月20日

出典4:『郷賢録』、12頁、福田禄太郎著、福山城博物館友の会編刊、平成12年10月1日

出典5:『福山の今昔』、173頁、濱本鶴賓著、立石岩三郎刊、大正6年4月26日

2005年3月16日更新:経歴・本文・出典●2006年2月22日更新:本文●2006年6月1日更新:タイトル●2008年2月14日更新:経歴・本文●2008年8月18日更新:本文●2010年3月31日更新:経歴・本文・出典●2010年11月15日更新:写真●2010年12月20日更新:写真削除●